

44.【住宅の木造率】 東北や北陸で高さが目立つ一方、際立つ沖縄の特殊性

前々回、前回の記事で、令和5年住宅・土地統計調査による住宅の「広さ」に関する指標を見ましたが、今回は住宅の「構造」を採り上げることにします。同じ統計の使用が続きますが、日本の住宅の多様性が興味深いということでお許し下さい。

住宅・土地統計調査による「住宅」の分類は、居住世帯の有無や所有関係（持ち家、借家など）のほか、下のような区分もあり、ここでは、「構造」の中で「木造」の割合を「木造率」として算出し地域比較を試みることにします。

「住宅・土地統計調査」での「住宅」の分類区分例

住宅の種類	建物の構造	住宅の建て方
└ 1_専用住宅	└ 木造	└ 1_一戸建
└ 2_店舗その他の併用住宅	└ 非木造	└ 2_長屋建
	└ 鉄筋・鉄骨コンクリート	└ 3_共同住宅
	└ 鉄骨造	└ 4_その他
	└ その他	

森林資源が豊富な日本では、歴史を通じて建物は木で造られてきました。近代以降、鉄筋コンクリート造りなど「非木造」の建物も増え、戦後は住宅もマンションなど非木造が多く見られるようになりましたが、戸建て住宅は基本的に木造です・・・と、思いきや、必ずしもそうは決めつけられない状況もありそうなので、都道府県、市区町村別に「木造率」を見ていきましょう。

その前に、住宅・土地統計調査での「木造」の定義を確認しておきます。

「住宅・土地統計調査」での「建物の構造」の定義

木造	建物の主な構造部分のうち、柱・はりなどの骨組みが木造のもの	
非木造	鉄筋・鉄骨コンクリート造	建物の骨組みが鉄筋コンクリート造、鉄骨コンクリート造又は鉄筋・鉄骨コンクリート造のもの
	鉄骨造	建物の骨組みが鉄骨造（柱・はりが鉄骨のもの）のもの
	その他	上記以外のもので、例えば、ブロック造、レンガ造などのもの

この定義による「住宅」総数（居住世帯の有無や所有関係、種類などを問わず）における木造率は、全国平均で54.0%となります。読者各位の実感と比べてどうでしょうか。

なお、ここでも前回、前々回と同様、住宅・土地統計調査が全数調査ではなく、約5分の1の国勢調査の調査区内の約20万単位区での抽出調査からの拡大値であり、かつ、市区町村別では、町村は人口1万5千人以上に限り公表のため、全市区町村の比較とはならないことを前提に見ることが必要です。この点、重ねてご注意下さい。

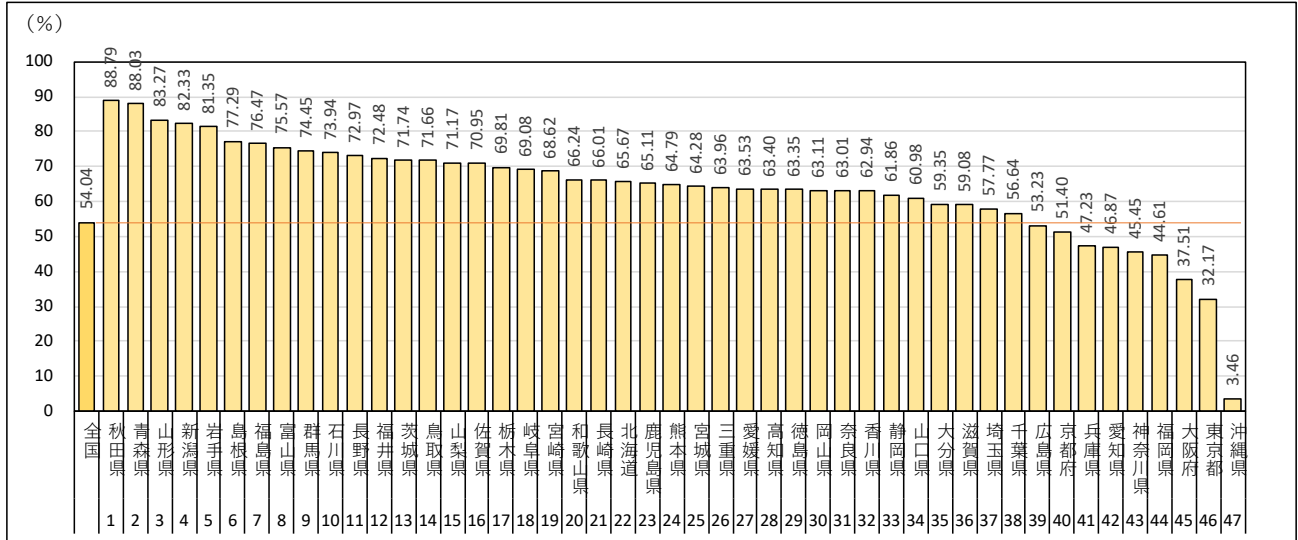
☞東北・北陸の各県で特に木造率が高い一方で、沖縄県はほとんど非木造

まず、都道府県別の住宅（総数）の木造率の比較からです。値が高い順に並べた図を次に示します。

一見して驚くのは、47都道府県のうち38道県が全国平均以上であり、全国値を下回るのは9都府県のみで、特に沖縄県が3.5%と極めて低い値であることです。沖縄県以外で全国値を下回るのは、46位の東京都をはじめ政令指定都市を抱える大都市圏域の府県です。地価水準が高く非木造の中高層マンション等を多く抱える大都市圏が、全国値を押し下げていると言えます。

上位グループには、1位の秋田県、2位の青森県をはじめ、東北・北陸方面の県の名が多く並びます。これらの地方は、[前回](#)、[前々回](#)の「住宅の広さ」でも上位が多く、平均世帯人員が現在でも概して多い（[記事No.6](#)参照）ところなので、大家族の農家住宅など大きな木造住宅が造られてきた経緯を反映しているとも考えられます。

都道府県別の住宅（総数）の木造率



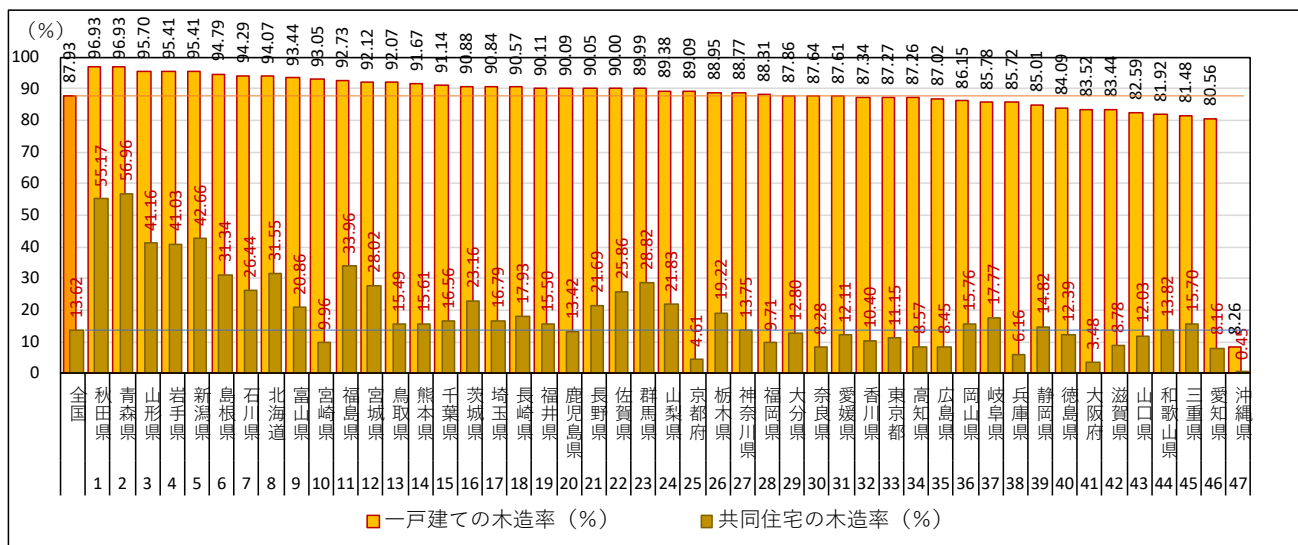
資料：令和5年住宅・土地統計調査

沖縄県の木造率が極端に低いのは、元々は沖縄でもほとんど琉球建築と呼ばれる木造だったものが、昭和20年の沖縄戦で大半が焼失してしまい、さらに山野が焼かれたため木材不足となったほか、その後のアメリカ統治下でコンクリート住宅が普及したため、と言われます。

さて、「住宅」総数における木造率は上のとおりですが、これを「住宅の建て方」別にみるとどうでしょうか。「住宅の建て方」4区分のうち主流の「一戸建て」と「共同住宅」における木造率を、「一戸建て」での値が高い順に並べた図を下に示します。

「一戸建て」の木造率の全国平均は87.9%で、「戸建ては木造」がやはり主流で、ここでも東北、北陸の県が上位であることは同様ですが、中位以下はだいぶ順位が入れ替わっています。総数で46位だった東京都は「一戸建て」では全国平均に近い木造率で33位に順位を上げています。

都道府県別の「一戸建て」と「共同住宅」での木造率



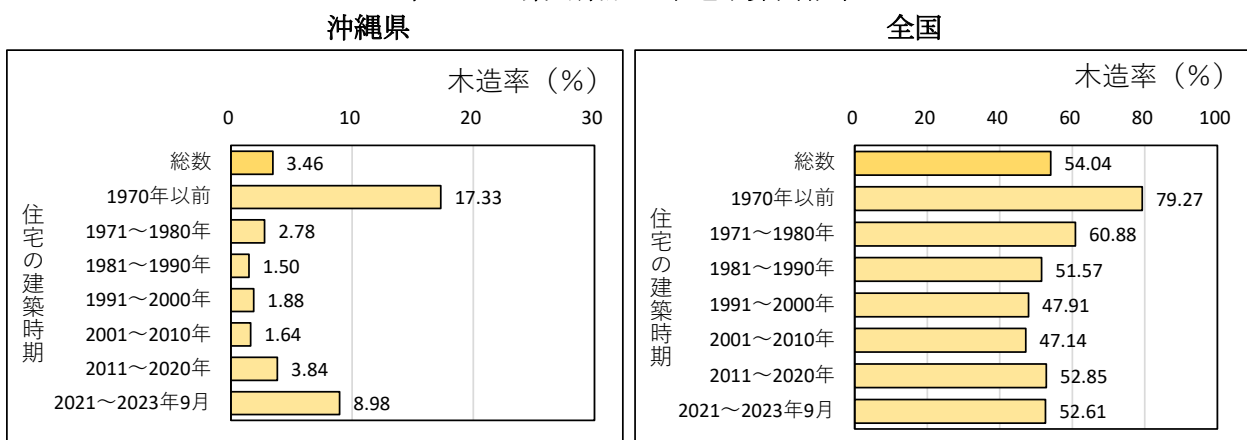
資料：令和5年住宅・土地統計調査

また、「共同住宅」ではさらに順位が入れ替わりますが、これは非木造のマンション等が大都市圏域で多いことなどによるものでしょう。東北、北陸の各県では概して「共同住宅」でも木造率は2～5割台と上位です。「共同住宅」の木造率の全国値は13.6%ですから、東北、北陸では木造アパートもなお多い状況が読み取れます。

「一戸建て」、「共同住宅」ともに、やはり沖縄県の値の低さが際立ちますが、それでも近年は木造の住宅建設が増えているようです。高温多湿な沖縄では台風やシロアリの心配も多く、鉄筋コンクリート造りが長らく主流でしたが、木造建築技術の向上もあって、木造の調湿効果や断熱性、価格面の優位性などが見直されてきたということのようです。そもそも首里城も木造だからこそ消失してしまったのです。

以下に、沖縄県の住宅の建築時期別に算出した木造率を、全国値と比べたものを示します。確かに沖縄県での最近の木造住宅建設が増えている状況がわかります。

住宅の建築時期別の木造率算出結果



資料：令和5年住宅・土地統計調査

☞東北や新潟県内の市区町で特に高く、大都市部は低いとその内部でも多様性

続いて市区町村別比較ですが、住宅・土地統計調査での公表が町村は人口1万5千人以上に限られるため全市区町村の比較とならず、比較対象は1,214市区町村（政令指定都市も行政区別）であることや、全数調査でないため精度が粗い可能性がある点に注意が必要なのは前回までと同様です。

この前提を念頭に置きつつ、対象1,214市区町村の住宅総数における木造率の算出値の上位25、下位20を次ページの表に、また上位25の市区町村の位置を次々ページのマップに示します。

全市区町村の比較ではありませんが、1位の青森県東北町をはじめ上位にはやはり東北地方や新潟県の市区町が多く分布しています。これらの木造率は95%以上で、大半の住宅が木造ということで、豊かな森林地帯を背景に持つところが多いようにも見えます。

因みに、青森県東北町は、しじみやワカサギ、シラウオ等を産する小川原湖を擁し、広い平地に住宅がゆったりと散在するところで、住宅の95%が一戸建て、残りも長屋建てが多く、共同住宅は1%しかありません。

一方、木造率が最も低いグループには、沖縄県内の市町村の名が並ぶ中に東京、大阪、名古屋の都心部の区の名が混じるという状況で、その割合はどれも3%台以下です。沖縄県内の市町村の木造率は今後高まっていく可能性はありますが、大都市都心部はいわゆる「タワマン」も含めほとんどマンション暮らしでしょうから、逆に限りなくゼロに近づいていくということでしょう。実際、東京都千代田区内では木造の住宅はまず見ないですからね。住宅に住む夜間人口自体も少ないですし。

市区町村別「住宅の木造率」の上位・下位

	順位	(県名)	市区町村名	木造率 (住宅総数) (%)
上位	1	青森	東北町	98.75
	2	兵庫	香美町	97.86
	3	秋田	三種町	97.65
	4	青森	南部町	97.50
	5	秋田	湯沢市	97.11
	6	新潟	阿賀野市	97.01
	7	青森	五戸町	96.64
	8	新潟	佐渡市	96.51
	9	石川	中能登町	96.39
	10	青森	つがる市	96.30
	11	青森	黒石市	96.28
	12	新潟	新潟市西蒲区	96.21
	13	山形	高畠町	96.05
	14	岩手	洋野町	96.02
	15	山形	庄内町	95.93
	16	青森	平川市	95.87
	17	秋田	美郷町	95.85
	18	新潟	新潟市南区	95.78
	19	福井	越前町	95.73
	20	北海道	釧路町	95.41
	21	千葉	いすみ市	95.35
	22	茨城	鉾田市	95.19
	23	長崎	南島原市	95.16
	24	秋田	男鹿市	95.16
	25	福島	会津美里町	95.12
	.	.	.	
下位	1195	東京	港区	3.76
	1196	沖縄	豊見城市	3.59
	1197	沖縄	中城村	3.45
	1198	沖縄	北谷町	3.37
	1199	沖縄	北中城村	3.33
	1200	沖縄	読谷村	3.25
	1201	大阪	大阪市中央区	3.02
	1202	沖縄	沖縄市	2.97
	1203	愛知	名古屋市中区	2.74
	1204	沖縄	与那原町	2.63
	1205	沖縄	南風原町	2.56
	1206	東京	中央区	2.40
	1207	沖縄	那覇市	2.36
	1208	大阪	大阪市西区	2.23
1209	大阪	大阪市浪速区	1.89	
1210	沖縄	宮古島市	1.76	
1211	沖縄	浦添市	1.63	
1212	沖縄	西原町	1.41	
1213	沖縄	宜野湾市	1.26	
1214	東京	千代田区	0.55	

ただし、大都市内でも都心部と周辺部では様相が異なります。例として、東京 23 区別の住宅（総数）の木造率を値が高い順に並べたものを下表に示します。

千代田区は前述のとおり最も低く 0.55%ですが、住宅地の性格が強い杉並区は 41.7%と、23 区内でもかなりの幅があります。杉並区のこの値は、同じ都内の国立市、府中市、福生市などとほぼ同じ水準です。

23 区内の上位は、練馬、足立、葛飾など周辺部の区が多く、中心に近づくにつれて値が低くなる傾向が顕著です。

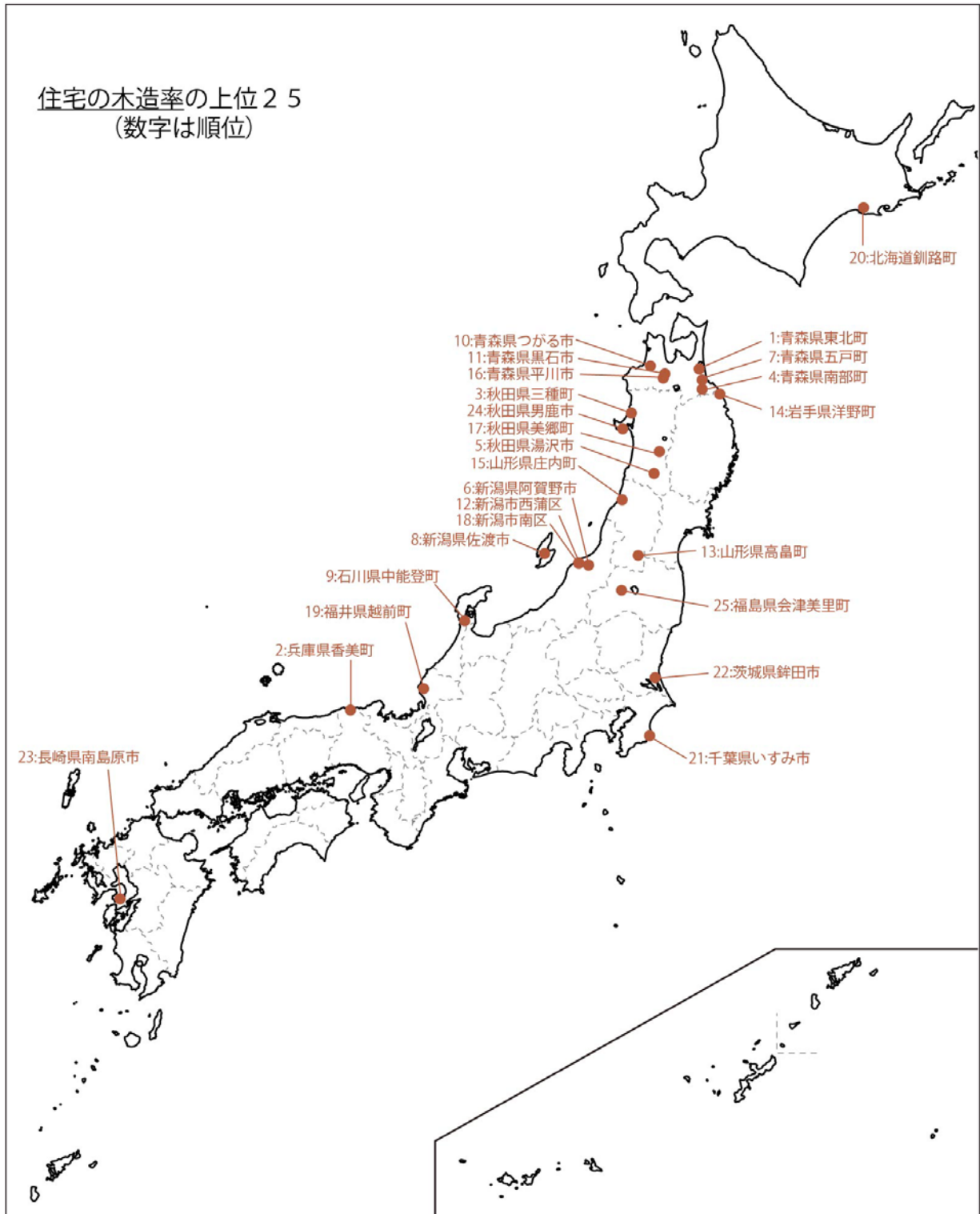
木造住宅は日本の文化と言って良いでしょうが、このように地域の環境によってその割合にも多様性があるということです。

東京 23 区の「住宅の木造率」

順位	区名	木造率 (住宅総数) (%)	全国順位
1	杉並区	41.70	1049
2	練馬区	40.15	1067
3	足立区	38.94	1072
4	葛飾区	37.96	1080
5	中野区	34.33	1100
6	世田谷区	33.35	1104
7	江戸川区	31.94	1113
8	荒川区	28.20	1128
9	大田区	27.78	1131
10	目黒区	25.82	1142
11	板橋区	25.63	1143
12	北区	25.34	1144
13	豊島区	20.78	1164
14	品川区	19.63	1166
15	新宿区	16.53	1172
16	文京区	15.62	1173
17	渋谷区	15.41	1174
18	墨田区	15.13	1177
19	台東区	10.06	1181
20	江東区	8.41	1184
21	港区	3.76	1195
22	中央区	2.40	1206
23	千代田区	0.55	1214

資料：令和 5 年住宅・土地統計調査

「住宅の木造率」の上位市区町村マップ



資料：令和5年住宅・土地統計調査